

科目分類	養護教諭課程			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
14020	4	前期・後期	選択	4	180
授業科目名 (英文)	養護実習 (Practicum of School Nursing)				
担当教員名	鈴木 みゆき				
授業の概要及び到達目標					
<p>○概要</p> <p>本科目は養護教諭養成教育の中核に位置するものである。学校教育の現場で児童生徒と直接かわり、実習校の教育活動、養護活動、学校保健活動等について、講話、観察、参加、実習によって理解し、大学で修得した理論や技術を用いて、理論と実践を結び付けた検証を行う。また、教育現場の実態や課題を把握し、解決のための態度や方法を修得する。</p> <p>○目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校保健活動および養護教諭の職務を教育活動の一環として捉え、保健室のあり方および養護教諭の果たすべき役割を理解する。 ② 「養護」の対象であり、成長過程にある児童生徒のありのままの姿を理解する。 ③ 児童生徒の個別的、集団的健康問題を把握し、組織的に適切な取り組みができる能力を養う。 ④ 教育専門職として、実践と研究を結びつける視点を養う。 ⑤ 養護教諭に対する志向を高めるとともに、養護教諭になるための自分自身の課題について理解し、力量を形成しようとする態度を養う。 					
準備学習等					
○「履修カルテ」を活用してこれまでの学びを集約し、養護実習における目標、課題を明確にしておくこと。					
成績評価の方法	養護実習評価基準に基づく実習校指導養護教諭の意見 40%、履修簿の内容 50%、実習態度 10%とし、総合的に評価する。				
テキスト	・大谷尚子・中桐佐智子編著、「改訂 養護実習ハンドブック」, 東山書房, 2015				
参考図書	「養護教諭の行う健康相談」(大谷尚子・森田光子編著, 東山書房) 「新改訂 学校保健実務必携<第3次改訂版>」(学校保健・安全実務研究会編著, 第一法規)				

備 考	<p>養護教諭一種免許状取得に必要な選択必修科目（養護概論、学校健康相談）の単位を取得していることが前提条件となる。養護実習事前事後指導、教職実践演習と合わせて履修すること。原級留め置き、または、仮進級となった場合は本科目を履修することはできない。</p> <p>教員のオフィスアワーについては看護学科「オフィスアワー」の項を参照ください。</p>
授 業 計 画	
<p>〔4 月：事前実習（3 日間）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断の計画立案、事前準備、実施（事前事後指導含む）、事後措置、評価、集団及び個人の健康問題の把握、教職員、保護者への働きかけ、学校医、学校歯科医との協力等に関する実際を理解し、活動に参加する。 <p>〔実習前訪問（1 日間）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習開始から概ね 10 日前には事前訪問を行い、実習目標や実習校が作成した実習計画の確認を行う。 ・実習内容を把握し、さらに必要となる事前学習を計画的に進める。特に保健教育の機会が設定されている場合は、テーマや指導案の様式等の打合せを行う。 ・本実習前の保健室の様子や学校生活について観察し、実習準備を整える。 <p>〔9 月～10 月本実習（15 日間）〕</p> <p>【1 週目：導入期】一見る・聴く・話す・理解する一</p> <p>◎実習校の学校生活に実習生自身が慣れる時期である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の 1 日の学校生活の様子を把握する。 ・養護教諭の基本的な執務（1 日の流れ）を理解し、行動する。 ・教職員それぞれの学校での仕事の概要や役割分担（校務分掌）を理解する。 <p>【2 週目：展開期】一かかわる・判断する・チャレンジする一</p> <p>◎自ら日々の目標を立て、積極的に活動する時期である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が保健室に来室している様子や養護教諭の対応から、児童生徒のニーズ判断や必要とされる養護の理解に努める。 ・学校の教職員の一員として児童生徒と共に過ごし、また様々な教育活動に参加し、児童生徒の理解に努める。 ・学校保健活動、学校安全活動の進め方を理解し、その活動に参加する。 ・学校健康教育の進め方を理解し、その活動に参加する。 <p>【3 週目：総括期】一深める・考察する・評価する一</p> <p>◎実習を振り返り、さらに深く課題を探求して評価する時期である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒とのかかわりを深め、内面の交流を図るよう努めてみる。 ・健康課題や教育課題への取り組みの現状と教職員、保護者、地域、専門機関との連携・協働について把握する。 	

- ・実習目標に添って自分自身の学びを振り返り評価する。

〔実習後訪問(1 日間)〕

- ・実習終了から概ね 10 日を目安に実習校を訪問し、実習中に行った教育活動の経過を把握する。